

No.とプログラム名	No.16 元気なからだをまもる！ ～看護の道具と技を使ってみよう～
実施日・回数	8月8日（木）午後 計1回実施
会場	【金沢区】横浜市立大学
参加児童数	27人
企業・団体等名	横浜市立大学 医学部 看護学科
参加の目的 (150文字程度)	看護職が行っている人々の健康を守る方法について、医療器具・医療用品を用いて体験することで、医療や看護に興味・関心を持ってもらうことや、健康や命の大切さを学んでもらうことです。また、今回の看護体験を通して、将来の進路選択に役立ててもらうためです。

■ プログラム内容

体験内容：シミュレーターを用いた心音の聴取、滅菌手袋の装着、点滴滴下調整

体験内容に関連した講話：心臓の機能と役割、感染予防、輸液療法

振り返り会：体験の感想の発表、看護学生や看護師への質問

■ 当日の流れ

「元気なからだをまもる」道具や技術について講話を通して学んだ後、看護技術を体験しました。

10人程度のグループに分かれて、看護学生や看護師、看護教員と一緒に3種類の看護技術を実践し、最後に全員で振り返り会を行いました。



講話にて心臓について質問した時の様子



保護者と一緒に心音を聴いている様子



■ 参加児童の様子や意見、感想など

- 色々な事がわかった
- 看護に興味が湧いた
- 手袋をつけるのが難しかった
- 心臓の音に癒された
- 点滴が難しかったけど、これを毎日やっている看護師さんがすごいと思った



■ 企業・団体の気付きや感想など

<看護学生ボランティア>

- 小学生が感染予防の重要性に真剣に取り組んでいる姿を見て、学びの意欲を感じた。
- 小学生に専門的な知識をわかりやすく伝える難しさを実感し、教える側としてのスキルを磨く必要性を感じた。
- 小学生との交流を通じて、教育活動にも積極的に貢献したいという意欲が湧いた。

<教員>

- 小学生にとって、看護体験が医療や看護に関わる将来を考えるモチベーションを高めるきっかけとなると感じた。



シミュレーターで心音を聴いている様子



学生と点滴滴下調整をしている様子



振り返り会で学生や看護師へ質問をしている様子

